

OKIは、強みである「モノづくり」の技術をもとに品質と信頼を獲得し、海外市場でのさらなる成長を目指します。

海外展開が加速するATM事業



富岡工場のATM製造ライン



中国深圳市のATM工場

OKIの紙幣還流式ATMは、この10年間に中国市場で大きな成長を遂げました。以前は出金専用機（CD）が主流で、日本のような入出金のできるATMはありませんでしたが、ATMの利便性や高信頼性が認められ、事業の拡大につながりました。さらに、中国以外でも、新興国を中心にATMの導入が徐々に始まっており、今後も海外市場でのさらなる成長が期待できます。

このようなOKIのATMグローバル戦略を支えているのは、世界に評価された高品質、高信頼性を生む製造技術です。

ATMのコア部品は、群馬県富岡市の工場で製造されており、内製部品の割合が極めて高くなっています。ここでは、独自に調整した最新のレーザープレス機などをそろえ、高度化された設備と熟練技術者のノウハウで小さな部品の品質にまでこだわって製造しています。OKIが世界初の紙幣還流式ATMを開発して以来、30年以上をかけて蓄積してきた生産技術とノウハウが活かされています。

中国の深圳市にあるATM工場では、日本向けも含めATMの最終組み立てを行っていますが、現在、好調なATMの製造が活況を呈し、フル稼働の日が続くことも珍しくありません。さらなる生産台数の増加や収益性を高めるために、生産性向上に取り組んでいます。

また、今後一層の海外展開を図るために、2014年1月にブラジルに新会社を設立しました。近い将来、紙幣還流式ATMを現地生産し、ブラジルを拠点に中南米市場への拡大を目指していきます。

OKIは、2016年度の海外売上高比率を40%以上とする目標を中期経営計画に掲げ、グローバルに競争力のある商品を投入して、海外売上高の拡大に注力しています。成長ドライバと位置づけたATM・プリンタ事業の競争力を支えているのは、OKIの「モノづくり」の力です。OKIはこの強みを活かして、グループの力を結集し持続的な成長を図っていきます。

生産性、品質向上に取り組むプリンタ事業

海外展開のもう1つの大きな柱は、プリンタ事業です。すでにプリンタの売上高の70%以上は海外向けで、OKIの海外事業の中核となっています。

OKIのプリンタは、光源にレーザーではなくLEDを採用していることに大きな特長があります。LEDの採用によって、より高精細な印刷と高信頼性を実現し、5年間無償保証のCOREFIDOシリーズの提供が可能となっています。

OKIは、LEDプリントヘッドを開発以来、長年にわたって研究を進めてきた結果、容積を従来の1/2にするとともに大幅なコストダウンを実現してきました。プリントヘッド用のLEDを生産している群馬県高崎市の工場では、LEDプリントヘッドの高精度化などの新技術の開発や、品質向上に取り組んでいます。

このLEDプリントヘッドを搭載したプリンタは、タイのアユタヤ県と中国の深圳市にある工場で完成品となります。これらの工場では、現地の作業者が複数の技能を取得することを奨励する「多能工」制度を導入し、モチベーションと生産技術の向上に貢献しています。

また、2014年4月より、従来中国で生産していた、主に国内向けのプリンタの一部機種を福島県福島市の工場に移管し、生産を開始しました。福島工場が一丸となって、品質向上を優先した生産工程の改善に取り組んだ結果、品質が良化し、生産性も改善することができました。今後も、「メイド・イン・フクシマ」を合言葉に、さらなる品質の改善に努めていきます。

このように、OKIは、各拠点でそれぞれに最適な生産を追求しながらシナジーを結集して、高品質・高性能な商品で海外市場の期待に応えていきます。



タイ アユタヤ県のプリンタ工場



福島市のプリンタ工場